

2008年5月10日

三重県御浜町 熊野どいらいファーマーズ 「食真農体感スクール」

2008年度第1回 田んぼの生きもの調査

主催：熊野どいらいファーマーズ

参加者：約30名

マコモで放棄水田を守れ！

どいらいファーマーズは三重県南西部の御浜町や南紀地方を衷心に、有期農法や生物多様性農法に取り組む若手農業者の任意団体。レンゲで土を肥やす農法、合鴨に雑草を食べさせる農法など、アイデアを出し合っってさまざまな活動を行っています。

どいらいファーマーズは、これまでも、高齢化などで放棄されたみかん園を引き受ける活動を続けてきましたが、最近増えている休耕田への対策を地域の力でなんとかできないかと、昨年度2007年度から「マコモ」栽培を始めました。マコモはイネ科の植物で、稲と同じように田植えして栽培します。マコモの栽培種は黒補菌という菌が共生しているため、菌の働きで花になる元の部分が肥大してタケノコのようになり、食用にされます。和食や中華の高級食材として期待されていて、三重県でも栽培を奨励しています。

どいらいファーマーズがマコモに注目したきっかけは、地域の団体主催の試食会でした。ファーマーズ事務局長の山本章彦さんが一口食べて「これはうまい！休耕田対策にも良いならばぜひ栽培しよう」と、活動を決心しました



(写真)

ヌマガエルを見つけた！
すっかり生きものと仲良しになりました。

地域の子どもたち 18 名が調査。

畔の野草ともふれあい。

今年度はマコモ栽培 2 年目。農のいとなみが、豊かな生物多様性を生み出していることを、地域の子どもたちやメンバーで実感するための取組のひとつとして、農薬を最小限に抑えたマコモ田んぼや、稲の田んぼで「田んぼの生きもの調査」を行いました。

調査には地域の子どもたち 18 名も参加。あぜの草花を観察したり、網をもって水路の生きものを観察したりしました。アカハライモリやヌマガエルを見つけるたびに喚声があがり、オオジシバリやハハコグサ、マツバウンランといった春の野草にも親しみました。

調査の指導をおこなった岩渕成紀さんは「環境保全を超えて、環境を再生していかなければならない、そして共生していく道を探さなければなりません。そのためにも農地の生きものに目を向けることが大事」と農と環境の共存を呼び掛けました。ファーマーズ事務局長の山本さんは「あいにくの小雨のなかでしたが、子どもたちは半日の調査をさいごまで熱心にやりとげ、感心しました。見つけたアカハライモリを連れて帰りたい、飼いたいという子どももいましたが、もといた場所に還すことにしたのが良かったです。また会いにくれば良い、この環境を守ればいいんだよ、というメッセージになったのでは」と、話していました。



(写真)

マコモの田んぼは、山付きで、湧水に恵まれた地域にあります。

(写真)

かわいらしい顔をしたヌマガエルは子どもたちの人気者。



アカハライモリ (水路の水中写真)

繁殖期のオスの尾は紫色に輝き、美しい。





ファーマーズ事務局長の山本章彦さん

<見つかった生き物>

イトミミズ・ユスリカ調査：ユスリカ、センチウ、ヒル、カゲロウの幼虫の抜け殻

カエル調査：アマガエル、ヌマガエル、シュレーゲルガエル

水路や田んぼの周辺：アカハライモリ、オニヤンマのヤゴ、シオカラトンボのヤゴ、スジエビ、ヌマエビ、魚（動きが早く種がわからなかった）

あぜ草調査：マツバウンラン、ハナイグサ、スズメノテッポウ、スズメノカタビラ、ギシギシ、イヌタデ、ミゾカクシ、ワレモコウ、シロツメクサ、オオジシバリ、ハハコグサ、コメツブツメクサ、不明2種

<調査の考察> 岩渕成紀さん

イトミミズは一匹も見つかりませんでした。山からの清水が常に流れ込む田んぼで、水が澄んでいるからかもしれません。肥糧の量が足りないのかもしれませんが、引き続き検討が必要です。



調査を指導した岩渕成紀さん

カエルをおとなしくさせて観察する方法を子どもたちに伝えているところ